



NEWS LETTER

December
2019

総合地球環境学研究所

「サニテーション価値連鎖の提案-地域のヒトによりそうサニテーションのデザイン-」プロジェクト

● PLより

人類史とサニテーション：その2

山内太郎

*前回の巻頭言(ニューズレター No.4)で、人類史とサニテーションについて雑文を書きました。引き続きお付き合いください。

約 20 万年という途方もなく長い期間、遊動生活を行ってきた人類(ホモ・サピエンス)は、定住・集住による人口増加にともなって生活環境の衛生状態が悪化するのを避けるため、排泄の場所をある程度固定化したのではないかと考えられます。とはいうものの、現在の途上国の農耕・漁労社会に散見されるように、人々は家屋の周囲や茂み、藪、小川、湖畔、海岸など野外のいたるところで用を足していたと想像できます。人口密度が低く、自然の浄化作用のおかげで、排泄場所にあまり気にせず暮らしてきたのでしょう。むしろ排泄空間を狭い場所に限定することは「(衛生上)よろしくない」という考えもあったと思われます。

人類の歴史に戻ると、農耕の生産性が高まってさらに人口が増加すると、社会が階層化され権力を持つ支配階級が生まれました。余剰の作物を保存・貯蔵できるようになり、農作業に従事せずに宗教や芸術や科学技術に専念する人々が現れました。このように多様な職業が生まれて都市が形成され、いわゆる四大文明が成立しました。世界最古の下水道は、メソポタミア(BC5000 頃)やインダス(BC2000 頃)などの古代文明で作られたといわれています。

都市化が進み人口密度が高まると、汚物は居住地の周辺に捨てられ、衛生状態の悪化によりペストなどの感染症が蔓延しました。中世ヨーロッパの都市の衛生環境の悪さはあまりにも有名です。時代は下り、1760 年代

にイギリスで産業革命が始まると、都市人口が急増、生活環境は悪化し、大都市でコレラが猛威を振るいました。1854 年に医師ジョン・スノウが、ロンドンのコレラ流行の原因を汚水の侵入した特定の井戸の使用に見だし、疫学的に証明(コッホによるコレラ菌発見は 1884 年)したことを契機として、近代的な下水道が作られるようになりました。このおかげで数億人の命が救われたと推計されています。英国の権威ある医学誌「Br Med J」は、近代 150 年間の最も偉大な医学のマイルストーンとして「サニテーション」を選出しました。

ところが、産業革命から 250 年、欧米の大都市で近代的な下水道が作られてから 150 年以上を経た現在、公の社会基盤(インフラ)としてのサニテーションの仕組みが成り立たなくなっています。これに対して、国・自治体から地域へ、集中型(centralized)から分散型(de-centralized)へ、というような「人間中心のサニテーション」が本プロジェクトのコンセプトです。昨年度(FR2)、サニテーションの「価値」についてゼロから考え直し、3つの要素(観点、軸)にまとめました。ご存じの Health & Well-being、Materials、Socio-culture です。この3要素が大切なのは言うまでもありませんが、これらを統合するフレームワークこそがサニテーションを理解するためには不可欠であり、ポスト SDGs 時代のサニテーションを考えるスタンダードな視座になると確信しています。

CONTENTS

01. PLより

「人類史とサニテーション：その2」

山内太郎

02. イベント・開催報告

* 10月下旬-12月のイベント

* [開催報告] Workshop in Zambia

* [開催報告] 地球研・高知大合同勉強会

03. イベント・開催報告

* [開催報告] 女性のサニテーション研究会

* その他のイベント

04. 業績

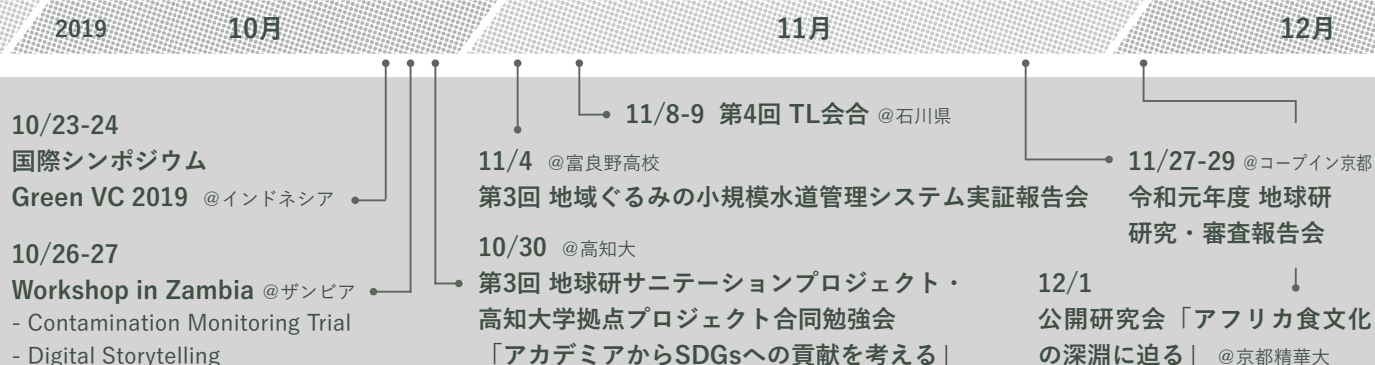
05. 事務局より

* 研究・審査報告会のご報告

* 農園プロジェクト Vol.5

● イベント・開催報告

10月下旬-12月のイベント



開催報告

Workshop in Zambia
Contamination Monitoring Trial / Digital Storytelling 10/26-27

2019年10月26日(土)～27日(日)、ザンビア・ルサカ市にて、Dziko Langaのユースメンバーとともに2つの可視化ワークショップを開催しました。ひとつは糞便汚染モニタリングのワークショップで、メンバー自身が自分たちの身の回りの生活環境の糞便汚染を測定して結果をみるという試みでした。まず、みんなで何が(どこが)汚染されていると思うかを考え、そこであった飲料水や食器、キッチンの床など6カ所でサンプルを採取、その後簡単に処理して培養した後、翌日そのデータ結果を整理しました。目に見えない汚染を自らの手で測定して「見える化」したことで、問題意識も高まり、具体的な改善策を話し合うことができました。もうひとつは、昨年メンバーが自分たちで撮影した「サニテーションに関して地域の問題だと思えるもの・場所」の写真を映像に構成し直すワークショップで、映像を作りながらこれまでの活動を振り返って内省する試みがなされました。今後もこうした可視化を通じて、地域の人々の衛生改善モチベーションの持続性向上・波及を目指していきます。

▶ Contamination Monitoring Trial



▶ Digital Storytelling



開催報告

第3回 地球研サニテーションプロジェクト・高知大学拠点プロジェクト合同勉強会 10/30
「アカデミアからSDGsへの貢献を考える」

2019年10月30日(水)、高知大学農林海洋科学部にて第3回となる地球研・高知大合同勉強会を開催し、3名が報告しました。開発と文化人類学の立場からフィールドでの事例紹介(清水)、紙おむつリサイクルを例とした企業の取り組み(市浦)、「学術・産業・地域・国際」への貢献を目指した高知大学拠点プロジェクトの評価(松岡)と、いずれも専門やアプローチが異なるなかでSDGsの捉え方や可能性について語られました。総合討論ではSDGsの明確なゴールを見据えた評価軸のあり方などに関する活発な議論があり、研究者(者)という立場から達成目標やコミュニケーションツールとしてのSDGsのみならず、その先を見越した展開についても考える機会となりました。



Program

コーディネーター：藤原 拓 (高知大学)

清水貴夫 (地球研)

多様性と「Well-Being」：SDGs・開発・文化人類学

市浦英明 (高知大学)

オゾンを活用した紙おむつリサイクル技術によるSDGsへの貢献

松岡真如 (高知大学)

環・人共生を実現する水・バイオマス循環システムの評価ー拠点プロジェクト、サブグループ4での取り組みー

総合討議

● イベント・開催報告

開催報告

女性のサニテーション研究会 11/11

2019年11月11日(月)、地球研にて「女性のサニテーション研究会」を開催し、女性の月経やサニテーションワーカーを研究している文化人類学者をお招きして、国際社会/地域社会における月経の位置づけの変化や、女性特有のサニテーション問題などを議論しました。まずはじめに杉田先生より月経に関する国際的な動向をご紹介いただき、続いて菅野先生とプロジェクトメンバーの増木さんから、インドを例に、地域における月経の捉え方やトイレ利用の現状、さらに、サニテーションワーカーの仕事の側面からサニテーションと女性のかかわりについてお話しいただきました。

コメントーターの原田先生には衛生工学の視点から、月経とトイレ(施設)の関係やナプキンの処理についてのコメントをいただき、総合討論では、月経をめぐるグローバルな動きとそれを受けたローカルの現状について議論しました。そうした議論のなかで、月経が「成人女性」になることや「穢れ」の概念と結びついている一方で、オープンに議論していこうとするグローバルな運動の対象となっていることが、この問題のひとつの特徴であることが共有されました。

Program

コーディネーター：林 耕次 (地球研)

サニテーションプロジェクトと本研究会の意義について

(地球研・山内太郎)

杉田映理 (大阪大学)

月経をめぐる国際開発の動向

菅野美佐子 (国立民族学博物館)

月経からみるサニテーションーインド農村を事例にー

増木優衣 (大東文化大学)

インドにおける水洗トイレの普及とサニテーションワーカーへの影響
ーラージャスターン州におけるValmikiカーストの人々に焦点を当ててー

コメント (京都大学・原田英典)

総合討論 (司会：地球研・中尾世治)



その他のイベント

● 10/23-24

国際シンポジウム Green VC 2019

2019年10月23日(水)～24日(木)、インドネシアでGreen Technology for Value Chains (Green VC 2019) が開催され、昨年に続き、山内先生、牛島先生、池見先生が参加しました。インドネシア班はプロジェクト始動以来、地域住民・協力者との関係構築や地域の実態調査などに取り組んできており、こうした活動が実を結んで今年8月にはSVC実証に向けたコンポストトイレを製作・導入。Green VCではそれらの成果について発表しました。



● 12/1

公開研究会「アフリカ食文化の深淵に迫る」

2019年12月1日(日)、京都精華大学にて、公開研究会「アフリカ食文化の深淵に迫る」を開催しました(サニプロは共催)。主催の京都精華大学アジア・アフリカ現代研究センターは来年度正式に開所される研究機関で、本プロジェクトの清水研究員が準備室のコーディネーターを兼任しています。研究会では、マリ共和国出身のウスビ・サコ学長の開会挨拶ののち、ノンフィクション作家の高野秀行氏と大阪産業大学の佐藤靖明准教授、そして清水研究員が、アフリカの食文化に関する講演を行いました。地球研は京都精華大学とMOUを締結しており、今後もプロジェクトのみならず研究所全体として京都精華大学と研究・教育事業を展開していくことが期待されています。

● 11/4

第3回 地域ぐるみの小規模水道管理システム実証報告会

2019年11月4日(月)、北海道・富良野高校にて、道総研主催の「第3回 地域ぐるみの小規模水道管理システム実証報告会」が開催されました。道総研、富良野高校科学部、水道利用組合、富良野市が協働して取り組んでいる地域の水管理支援体制の試みの実証について、報告発表と意見交換がなされました。

アフリカ
食文化の
深淵に迫る

講師 「食のバリエーションを追求」 高野秀行 (ノンフィクション作家)
「アフリカにおけるアフリカの食文化を考える」 佐藤靖明 (大阪産業大学)
「西アフリカのランドスケープと食文化」 清水 貴久 (地球研)

コメントーター 菅野美佐子 (国立民族学博物館) 山内太郎 (地球研)

司会 清水 貴久 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

司会 山内太郎 (地球研) 司会 菅野美佐子 (国立民族学博物館)

2019年10月下旬-12月の業績

*業績は毎月のみなさまからの報告に基づいています。追加や修正等がありましたらご連絡ください。

●メンバーの業績

[論文・図書]

中尾世治 (2019.11) 歴史と同時代性：口頭伝承研究と歴史叙述のフロンティア. 松本尚之ほか編『アフリカで学ぶ文化人類学』. 昭和堂, 京都市.(分担執筆)

Wutyi Naing, Hidenori Harada, Shigeo Fujii, Chaw Su Su Hmwe (Accepted) Informal emptying business in Mandalay: its reasons and financial impacts. Environmental Management. (Reviewed).

[その他の著作]

清水貴夫・寺田匡宏・中尾世治 (2019.10) ガイドブックが拓く民族誌の新境地：『ブルキナファソを喰う！』をめぐって. Humanity & Nature Newsletter 地球研ニュース (78):6-8.

[招待講演・基調講演]

清水貴夫 ブルキナファソ・カッセーナの伝統家屋の継承原理：消滅危機にある風土建築を考える. 文化遺産国際協力コンソーシアム第13回アフリカ分科会, 2019.12.13, 東京文化財研究所, 東京.

藤原 拓 農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築. 日本水環境学会 産業排水の処理・回収技術 研究委員会 2019 施設見学・講演会「革新的な水・資源回収システムの構築」, 2019.12.06, 高知大学, 高知.

[口頭発表]

Seiji Nakao Money in Africa: Monetary Transition from the Cowry to the Franc in Upper Volta. International Workshop for the Economic History of Africa, 2019.12.17, Cambridge University, Cambridge, UK.

清水貴夫 西アフリカのランドスケープと食文化. 公開研究会「アフリカの食文化の深淵に迫る」, 2019.12.01, 京都精華大学, 京都府京都市.

Arief Nurul Umam, Mohan Amarasiri, Daisuke Sano Human health risk of Legionella pneumophila infection caused by the groundwater usage in a decentralized drinking water system. The 7th International Symposium on Water Environment Systems, 2019.11.15, Tohoku University, Sendai, Japan.

Sital Uprety, Mohan Amarasiri, Bipin Dangol, Daisuke Sano, Thanh H. Nguyen Water, Sanitation and Hygiene (WaSH) assessments two years after Nepal 2015 Earthquake. World Bosai Forum 2019, 2019.11.09-12, Tohoku University, Sendai, Japan.

天野麻穂・片岡良美・川本思心 文理融合プロジェクトを維持させるコミュニケーション～「信頼」に着目して～. 科学技術社会論学会2019年度年次研究大会, 2019.11.09-10, 金沢工業大学, 石川県野々市市.

片岡良美・川本思心 科学論における図像の機能—写實的／思考的図像の連続性の検討. 科学技術社会論学会2019年度年次研究大会, 2019.11.09-10, 金沢工業大学, 石川県野々市市.

清水貴夫 多様性と「Well-Being」: SDGs・開発・文化人類学. 第3回 地球研サニテーションプロジェクト・高知大学拠点プロジェクト合同勉強会「アカデミアからSDGsへの貢献を考える」, 2019.10.30, 高知大学, 高知県南国市.

Wutyi Naing, Hidenori Harada, Shigeo Fujii, Chaw Su Su Hmwe Uncertainty analysis of simplified MFA for data limited conditions: A case study of nitrogen and phosphorus flow in Mandalay, Myanmar. 19th IWA International Conference on Diffuse Pollution & Eutrophication, 2019.10.27-31, Halla Conventional Center, Jeju, South Korea.

天野麻穂・片岡良美・川本思心 文理連携を維持させるプロジェクトマネジメント～コミュニケーションに着目して～. 研究・イノベーション学会第34回年次学術大会, 2019.10.26-27, 政策研究大学院大学, 東京都港区.

Taro Yamauchi et al. Unsafe child feces disposal as a risk factor of child stunting in an urban slum of Indonesia. 4th International Symposium on Green Technology for Value Chains 2019, 2019.10.23-24, Indonesia Convention Exhibition, Tangerang, Indonesia.

Ken Ushijima Role of Researchers in Co-creation Process of Sanitation Value Chain. 4th International Symposium on Green Technology for Value Chains 2019, 2019.10.23-24, Indonesia Convention Exhibition, Tangerang, Indonesia.

Mayu Ikemi, Ken Ushijima, Umi Hamidah, Widyarani, Neni Sintawardani Community-based Participation Process of Waste Treatment and Management in the Sanitation Value Chain. 4th International Symposium on Green Technology for Value Chains 2019, 2019.10.23-24, Indonesia Convention Exhibition, Tangerang, Indonesia.

●プロジェクトの活動

[企画・運営・オーガナイズ]

公開研究会「アフリカ食文化の深淵に迫る」(共催). 2019.12.01, 京都精華大学, 京都府京都市.

女性のサニテーション研究会. 2019.11.11, 地球研, 京都府京都市.

第3回 地球研サニテーションプロジェクト・高知大学拠点プロジェクト合同勉強会「アカデミアからSDGsへの貢献を考える」(共催). 2019.10.30, 高知大学, 高知県南国市.

Workshop in Zambia “Contamination Monitoring Trial & Digital Storytelling”. 2019.10.26-27, Lusaka, Zambia.

● 事務局より

令和元年度 地球研 研究・審査報告会のご報告

2019年11月27日(水)～29日(金)、コープイン京都にて本年度の地球研 研究審査・報告会が開催されました。研究審査・報告会は、年に一度、地球研の所員が一堂に会し、プロジェクトや事業の研究活動を互いに報告して意見交換をする場です。サニテーションプロジェクトの発表は2日目にわれ、今年はザンビアにおけるアクションリサーチとインドネシアの小学校へのコンポストトイレ導入などをメインの話題とし、地域コミュニティとの共創の成果をアピールしました。その後の質疑応答でも、アクションリサーチやボトムアップ型の取り組みに対するコメントを多くいただき、一定の評価を実感するとともに、今後の研究活動を進めていくうえで大きな励みとなりました。

報告会の準備においては、各チームリーダーをはじめ、メンバーのみなさまに多大なサポートをいただきました。あらためてお礼を申し上げます。



・・・最終日の地球研忘年会・・・



栄養循環プロと
コラボ

まさかの
ニャンベ先生!!

・ 編集後記 ・

本年もプロジェクトの活動にご協力いただきありがとうございました。2020年もどうぞよろしくお願いたします。
みなさま、よいお年をお迎えください。
(山内太郎 & サニプロ地球研メンバー一同)

Gallery 10月30日 高知での懇親会

高知の美食に舌鼓♥ 勉強会をアレンジくださった藤原先生、高知大学の先生方、サニプロ Technology チームメンバー各位、ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。



今年の春、地球研の小さな畑で、汚泥肥料を使って農作物（メインはさつまいも）を育てる試みを始めました。初めての畑作業に戸惑いつつもなんとか収穫までこぎつけ、季節は早くも冬を迎えました。今年の経験を生かし、来年はより計画的に農園プロジェクトを進めていきます。(担当：林・木村)

Vol. 5 収穫祭 & 来年に向けての準備

11月10日、春の土づくりに始まりその後さまざまな作業のたびにともに汗を流してきたメンバー25名ほどが集まり、収穫祭を開催しました。9月下旬に収穫して以来、冷暗所で約1ヵ月間じっくりと熟成させたさつまいもを炭火焼きにし、みんなで試食しました。小ぶりながらも甘くてホクホクしたとても美味しい焼きいもができました！ 下水汚泥由来の土壌改良剤を混ぜ込んだ土で作ったさつまいもですが、見た目も味もごく普通で、みんな何の抵抗もなく美味しくいただきました。

収穫祭に先立つ11月2日には、掘りっぱなしだった農園を訪れ、少量ですが汚泥肥料を追加で混ぜ込んで土づくりをし、畝を整えて整備をしました。来年も美味しいさつまいもが作れるよう、そしてそれに付随した環境教育イベントが無事に開催できるよう、冬の間、さつまいもと相性がいいといわれる玉ねぎを少しだけ栽培することにしました(11/23 植え付け)。順調にいけば、玉ねぎは来年5月末に収穫の予定です。



農園整備と玉ねぎの植え付け



収穫祭にはめずらしく山内先生も参加

NEWS LETTER No.5 2019年12月 発行

「サニテーション価値連鎖の提案-地域のヒトによりそうサニテーションのデザイン-」プロジェクト
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457-4 総合地球環境学研究所
Email: sanitation_HQ(at)chikyu.ac.jp TEL: 075-707-2331
http://www.chikyu.ac.jp/sanitation_value_chain/

© SANITATION PROJECT